

大牟田市立橘中学校

1 本校のESDの特徴

本校では、総合的な学習の時間を中心に、全教科、領域において、横断的・総合的にESDを取り組んでいる。主に防災・減災や福祉、世界遺産学習、キャリア教育（生き方、いのち、進路）などについて学習している。

体験学習を6月と1月に3日間ずつ設定しており、充実した体験を通したESD活動ができています。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

学年等	主なテーマ		
	防災・減災および福祉学習	世界遺産学習	キャリア学習
1年	11月 防災・減災 および福祉学習		
2年		11月 世界遺産学習 京都の世界遺産	5月 職場体験学習 1月 上級学校調べ
3年	6月 保育体験学習		5月 上級学校訪問 11月 進路学習
その他	1月・・・ユネスコスクール子どもサミット		

※本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により変更有

3 特徴的な活動事項

第1学年 防災・減災&福祉学習（11月～1月実施）

〈目標〉 暮らす地域の、災害・社会の特性や防災科学技術等についての知識を備え、減災のために事前に必要な準備をする能力、自然災害から身を守り、被災した場合でもその後の生活を乗り切る能力、進んで他の人々や地域の安全を支えることができる能力、災害からの復興を成し遂げ、安全・安心な社会を構築する能力、といった「生きる力」を涵養し、能動的に防災に対応することのできる人材を育成する。

〈実践の展開〉

○ SDGsについて学習（ターゲットに向けて自分たちでできることを宣言しよう）

○ オリエンテーション・講話（本校 防災・減災担当教員による）

○ 防災グッズ使用体験

（野菜ジュースと乾パンの食事、アルミポンチョの使用、携帯トイレの実験、三角巾の利用方法、ロープの結び方など）

○ 防災グッズの他の使い方、備えていた方がよいものについてブレインストーミング

○ 防災学習の体験学習

（避難所開設の模擬訓練、段ボールベッドと簡易テントの組み立て）



- 福祉学習の講話（認知症の方に来ていただき講話）
- 社会福祉協議会の意義，高齢者体験（アイマスクなど）
- 車椅子体験・アイマスク・白杖等の体験
- 学習のまとめ（6つのテーマに分かれて，まとめている。）



〈生徒たちの様子（感想から）〉

（1年生）

- ・災害の種類や4つの「助」（自助・共助・公助・N助）について学びました。これから、防災・減災についてたくさん知り，災害があったときに生かしていきたいです。
- ・他の人を助けるより，まず，自分の命を守らないと，みんなを助けることもできなくなるんだなと思った。みんなが自分と違う意見を出していても，自分の意見を捨てずに発表しようと思う。
- ・防災グッズを初めて使ってみて，トイレやアルミポンチョ，非常食など，たくさんの災害の時に役に立つ便利な物があって凄いなと思いました。
- ・福祉はしあわせの福と，さいわいの祉を合わせた漢字で，昔はあったが今はなくなってしまったつながりや絆を復活させるためにあり，「㊦だんの㊧らしを㊨あわせに」を実現させるために，地域福祉や高齢者福祉で高齢者の話を聞いてあげたり，災害で家が壊れたときのお手伝いをしたりしていることが分かった。
- ・認知症学習では，自分で認知症であると受け止めることができないことが分かった。そして，今日の講師は，友人から「3回言っているよ」と直接言ってくれたことで気がつき，周りの人との関係を良好に保っておくことの大切さを実感した。
- ・アイマスク体験では，真っ暗になり，とても怖くて，あとどれくらいで階段なんだろうかと白杖でトントンと確認しながら，ゆっくり降りていった。左右が少しずれるだけで，ぶつかりそうになって危なかった。その後，介助役をしたが，細かい指示がとても難しかった。



（2年生）

- ・「令和2年7月豪雨の時は，昨年学んだ防災・減災学習を生かすことができた」や「役に立った」という言葉が多くの子から聞かれた。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・コロナ禍という状況から，昨年度までの活動によって交流してきたG Tや地域の人々との関係すべてを継続し，つなげることが難しかった。しかし，教員でやってみて，改めてG Tや地域の人々との関係の大切さや本物の方が語る力を実感できた。

○課題

- ・一つ一つの活動を単発の学習とするのではなく，教科，行事などとの横断的な学習となるようにさらなるカリキュラム・マネジメントの工夫が必要